

JOA NEWS



2025.1



笑顔でつなぐチームのバトン

2024年度全日本リレー大会 11 p

2025	年頭所感	2 p
Report	全日本選手権大会報告[ミドル・ロング競技部門]	2-4p
Report	世界大会等報告 [トレイルO、フットOジュニア・シニア、MTBO]	5-9 p
Report	2024年度日本学生選手権 [スプリント・ロング競技部門]	10 p
NEW !	アジア選手権・アジアジュニアユース選手権 速報	7 p



私たちはスポーツ振興くじ助成を受けています。

写真：木植早生様

年頭所感

謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。皆様におかれましては、希望の新年を迎えられたことかと存じます。

近年の世界的な気候変動の影響は、自然の中で行うスポーツであるオリエンテーリングにも少なからず影響を与えているようです。真夏のスポーツでは熱中症のリスクの回避が重要視されるようになってきています。ハチによる被害も秋遅くまで発生するようになってきました。中山間地の荒廃による生態系の変化に伴い、熊の出没による大会の中止の事例もありました。より一層の安全への配慮をお願いいたします。

嬉しい傾向としては、大学生の皆さんを中心として、各クラブなどの主催大会の活性化を感じています。新規トレインの開拓も進み、将来への期待が感じられます。おかげさまで昨年10月に開催された全日本オリエンテーリング選手権大会(ミドル/ロングディスタンス競技部門)でも両日1000人を超える参加がありました。ご参加いただいた皆様に改めてお礼申し上げます。

クオリティの高い大会の増加は、香港などの近隣諸国からの参加者の増加にもつながっています。日本で開催予定の国際大会は、本年8月のアジアジュニアユース選手権、11月の東京2025デフリンピック、2026年2月のスキーO世界選手権、2027年5月のワールドマスターズゲーム2027関西(IOFのマスターズ世界選手権併催内定)と目白押しです。皆様のサポートをお願いいたします。

国際的な動きとしては、昨年日本から擁立した杉山隆司氏が16年ぶりにIOF理事に就任しました。アジア地域はIOF加盟国数がヨーロッパについて2位であり、加盟国が飽和状態のヨーロッパに対して、まだ未加盟国も多くあります。IOFとしてもアジアのオリエンテーリングの発展に注目しているところでの理事就任は、日本のみならずアジアのオリエンテーリングの発展においても重要な一歩となります。

アジア地区の発展という観点からは、アジアオリエンテーリング協会(AOA)が設立され、シンガポールに法人登記されました。会長には日本が擁立した村越真が就任しました。今後IOFと正式な覚え書きを交わして、IOFの傘下にある組織として活動することになります。アジア協会の設立は、アジア大会あるいはその下位地域での大会への参加を推進する上で重要です。また、新興しつつある東南アジアの発展にも寄与するでしょう。対外的な活動においても、皆様のお力添えを是非お願いいたします。

コロナ騒動は一段落しましたが、様々な教訓も残してくれました。皆様におかれましては健康にご留意の上、それぞれの目標に向かって邁進していただければと思います。明るい未来を目指して、皆様と共に日々の活動を楽しく推進してゆきたいものです。



副会長
愛場 庸雅



副会長
村越 真

第13回全日本選手権大会(ミドル・ディスタンス競技部門)

第51回全日本選手権大会(ロング・ディスタンス競技部門)

全日本大会実行委員会

2024年度の全日本オリエンテーリング選手権大会(ミドル/ロングディスタンス競技部門)が岐阜県恵那市にて開催され、10月19日のミドル・ディスタンス競技部門は1050名、20日のロング・ディスタンス競技部門は1033名という多くの参加者を迎えて無事開催することができました。

今回使用されたトレイン「望郷の森」はインカレやクラブカップ7人リレーなど多くの熱い勝負が繰り広げられた名トレインで、数多く存在する礫地や道の少なさから苦戦を強いられた競技者も少なくなかったのではないかと存じます。しかし、そういった攻略の難しさの中にもオリエンテーリングの更なるおもしろさを感じていただけたならば幸いです。

実行委員長の築地孝和氏をはじめ、関西・中部・関東と各地から集まった運営者の中には、本トレインでのインカレやクラブカップ7人リレーで選手やオフィシャルとして参加・活躍した者も多くいました。当時以上の熱量を持って丸となって運営に取り組み、そして岐阜県オリエンテーリング協会の皆様の下支えがあり、全競技を成立させることができました。

また、今年度もWorld Ranking Eventとの併催を行い、国際色豊かな大会となりました。香港・台湾・イギリス・フィンランドなどの海外選手が参加し、国際大会としての地位を少しずつ確立してきています。来年度の全日本オリエンテーリング選手権大会は栃木県那須塩原市にて開催予定です。老若男女、国内外を問わず皆が目指したいと思える舞台を作り上げていきますので、2025年度も多くの皆様の参加を心よりお待ちしております。

2025年10月4日(土)ミドル・ディスタンス競技部門

2025年10月5日(日)ロング・ディスタンス競技部門

開催地: 栃木県那須塩原市ハンターマウンテン塩原付近

(競技用Oマップ新規作成予定)



詳細はJOAホームページにて

ミドル競技部門 男子選手権者 小牧弘季 選手

かつて"ミドルの帝王"ティエリ・ジョルジュは「このコントロールで1秒ミスをした」と言ってコーチが舌打ちをした、そんな話を日本のレジェンドである村越さんから聞いたことがあります。そのレベルにはまだ到底及びませんが、緻密なナビゲーションとワイルドなスピード感で秒単位の争いをするミドルディスタンスという競技が私はとても好きです。

今年の全日本大会も望郷の森というチャレンジングなトレインで開催されました。初日のミドルはオリエンテーリングの上手さ/速さだけでなく、困難なトレインでレースをまとめることも求められます。国際大会にも通ずるその力は、ずいぶんとこの大会に育ててもらったなと感じています。

今回自身4回目の優勝を果たすことができました。村越さんはじめ先人にはまだまだ及びませんが、初めて勝った時と同じ新鮮な喜びを噛み締めることができました。来年もまた、ここに立ちたいと思います。

素晴らしい大会を開催して下さった実行委員会の皆様、私を応援・サポートしてくださっている皆様、ありがとうございました。



ミドル競技部門・ロング競技部門 女子選手権者 稲毛日菜子 選手



筆舌に尽くしがたい2日間でした。たくさんの応援と祝福の言葉をいただき、ありがとうございました。特に、一緒にラントレをしたり、遠征を共にしてくれた仲間たちに、感謝を伝えたいです。

レース中は別世界にいるくらいオリエンテーリングに没頭して走ることができ、本当に贅沢な時間でした。

今シーズンは競技に取り組むスタイルも変わり正直今までの中で一番勝利へのイメージを持てずにいましたが、長年培ってきた勝負の度胸と、全日本という研ぎ澄まされた大舞台が私にパワーを与えてくれました。

ロングは5連覇8度目の優勝となりました。しかし歴史を振り返れば偉人達に追いつくにはまだまだ遠く、ここまで刻ま

れてきた大会の沿革とそこに挑み続けた選手達への尊敬の念が改めて深まりました。

今年も熱く盛り上がり選手が目指す場を造ってくれた運営者の皆様に感謝申し上げます。

ロング競技部門 男子選手権者 伊藤樹 選手



2年ぶりの優勝、とても嬉しいです。

去年冬に足の怪我があり思うように練習ができていませんでした。苦しい期間でしたが、その中で自分を顧みて選手としての目標を再確認することができ、夏秋と練習を再開することができました。その結果として、この全日本の舞台でよいパフォーマンスを発揮し、優勝を掴み取ることができてとても嬉しいです。

今回で通算4度目の全日本ロング優勝となり、歴代の記録を見ても偉大な先輩方に引けを取らない結果であると考えています。まだまだ未熟な部分が多く決して肩を並べられるとは考えていませんが、結果に相応しい選手でいられるよう心掛けて、今後の競技生活を過ごしていきたいです。

現在は来年の世界選手権を目標にトレーニングに励んでいます。個人だけでなく日本チームとしても、世界選手権に向けて取り組んでいきたいと考えています。応援のほどよろしくお願いします。

写真：木植早生 様

2024年欧州トレイルオリエンテーリング選手権大会(ETOC) 遠征報告

トレイルO委員会

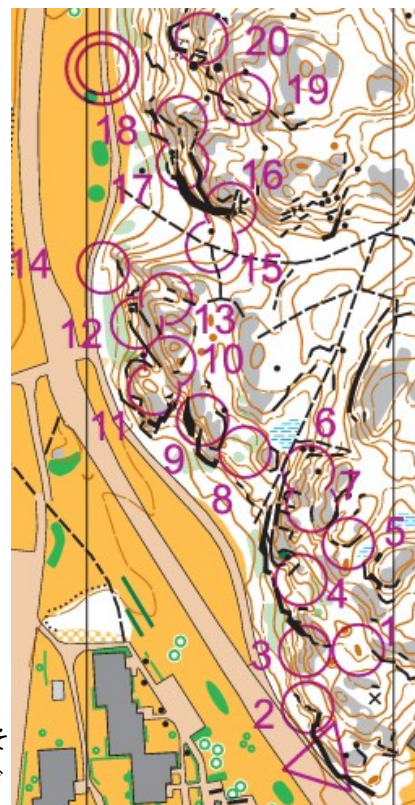
[日程]

5月 4日(土)-7(火)	WarmUp大会(プレイベント)
5月 7日(火)	開会式
5月 8日(水)	モデルイベント
5月 9日(木)-10(金)	PreO
5月11日(土)	Relay
5月12日(日)	TempO(午前:予選/午後:決勝)



[出場選手]

- (後列左から)
 茅野耕治(ワンダラズ)
 田代雅之(静岡OLC)
 小泉辰喜(東京OLクラブ)
 (前列左から)
 松橋徳敏(つるまいOLC)
 鈴木規弘(多摩OL)
 荒井正敏(多摩OL)



5月4日開催 PreO Sprintの地図

[遠征報告]

トレイルOの世界選手権は現在隔年開催。今年は非開催の年だが、代わりに欧州選手権がフィンランド・トゥルクで開催された。日本にもゲスト参加*1の資格があるので、チームを組んで遠征。

ETOC直前には同じ街でプレイベントがあり、チームメンバー全員が参加。トレイルOの競技形式はこれまでPreO(2~3時間の制限時間の中で30前後の課題/正解数を競う/同点の場合はTC*2で決着)、TempO(TC*2のみからなるレース)、Relay(チーム対抗/チームメンバーそれぞれがPreOパートを継走+TempO)の3種目があったが、近年PreO Sprintという形式が試行されている。

*1: 欧州選手権タイトル対象外。ワールドランキングポイント獲得対象。

*2: タイム・コントロール、同じ場所で3~5課題連続して回答、その速さを競う。(不正解1つにつき一定秒数加算)

順位	NAME	国旗	RES.	
			PTS	TIME
1	Tatsuyoshi Koizumi	JPN	20	25:52
2	Klemen Kenda	SLO	20	26:30
3	Pavel Ptáček	CZE	19	12:24

[PreO Sprintの競技形式]

- ・20コントロール制限時間30分。
- ・各コントロールフラッグ1個(正しい位置か正しくないか)
- ・正解数で勝敗(同点なら所要時間の短い方が上位)

今大会は東京OLクラブの小泉辰喜選手が見事優勝した。まだIOFの正式種目にはなっていないが、世界各地で試行大会が開かれている。いずれ正式種目になるかも知れない。

[ETOC2024結果]

今回のETOCはチェコ、フィンランドが強かった印象だ(両国の入賞メンバー多数)。最終日はTV中継の中、地元フィンランドがワンツーフィニッシュを決めていた。各優勝者と日本選手の成績は以下の通り。

順位	名前	正解数	TC秒数
1	Aaron Gaio (ITA)	62	66.5
40	小泉	56	156
51	田代	55	258
79	鈴木	51	318
98	荒井	46	214.5
99	茅野	46	236
121	松橋	37	289

順位	チーム	時間
1	NOR1	7分57秒
17	日本1	17分12秒
	小泉-鈴木-田代	
-	日本2	(*3)
	松橋-荒井-茅野	
*3:成績詳細不明 (第1チームのみ成績公表)		

順位	名前	正解数	TC秒数
1	Svein Jakobsen (NOR)	56	414.5

順位	チーム	時間
1	CZE	19分21秒5

Heat A		Heat B	
1 ITA	150.5	1 CZE	221.5
18 ESP	256.5	18 ITA	389.5
----- Border -----			
33 田代	334	30 茅野	441.5
55 松橋	675.5	31 小泉	442
57 鈴木	794	56 荒井	775

順位	名前	時間
1	Lauri Makinen (FIN)	320
2	Petteri Hakala (FIN)	325.5
2	Simon Marecek (CZE)	325.5

※同着2位

2024年ジュニア世界オリエンテーリング選手権(JWOC) 報告

強化委員会、ジュニア小委員会

7月1〜7日にチェコのPilsenで開催されたJWOC2024に、本年度も男女6名ずつのフルメンバーで挑みました。コロナ期間を経て、2023年よりJWOCはフォレストのミドル種目で予選がなくなり、代わりに男女混合チームで競うスプリントのミックスリレーが正式種目となっています。昨年は各国2チームずつの出場しか認められなかったのですが、今年は3チームずつ出場可能となり、スプリントリレーも全選手が参加できました。つまり、全選手が全5種目にエントリーが可能となりました。このためもあり、昨年引き続き4月の代表選考レースへの出場条件として3000mなどの走力基準タイムを設定しています。

初日に実施されたスプリントリレーでは第1チーム(中館-加藤-寺嶋-小野塚)がトップのノルウェーに対するタイム比117%で出場33チーム中の23位。昨年の20位には及ばなかったものの、今年も中堅国とは互角の勝負ができました。最終日のフォレストリレーでも男子は出場32チーム中の23位で、今年も過去最高順位(21位)に迫ることができました。

個人種目では今年が最後のJWOCとなった寺嶋が全種目で日本男子のトップタイムとなり、特に目標と定めていたミドル種目では42位(タイム比117%)という素晴らしいものでした。ミドルの翌日に行われたフォレストリレーの第1走者でも先頭集団に食い下がり、全体の9位で第2走者にチェンジオーバーするという快走を見せてくれました。「日本人も世界と互角に戦える」ことを示す、本当に素晴らしい走りでした。

女子ではともに初出場だった高校生の大野と山本がチーム内上位と活躍し、来年以降のさらなる飛躍を期待させるものでした。チーム全体としても、慣れないチェコのトレインで今できる実力を出し切ってくれた選手が多かったと思います。今年も多くのご支援、ご声援をいただきました。今後も8月のAsJYOCなどジュニアチームの挑戦は続きます。引き続きご注目ください。

成績(抜粋)

スプリントリレー

1 ノルウェー	54:08
23 日本1(中館-加藤-寺嶋-小野塚)	1:03:19

スプリント女子

1 Elli Punto (FIN)	14:04
1 Michaela Novotna (CZE)	14:04
112 山本 瑛里	18:02
119 小野塚 智美	18:21
120 中館 美卯	18:25
136 大野 知沙子	20:04
143 牧 依瑠香	21:49
144 小川 奈菜	22:42

スプリント男子

1 Matthieu Buehrer (SUI)	13:17
71 寺嶋 謙一郎	15:11
108 梶本 和	16:06
110 竹林 寛生	16:11
120 加藤 賢斗	16:21
141 岩崎 壮馬	17:18
146 尾藤 碩	17:45



スプリント会場にて

ロング女子

1 Lucie Dittrichova (CZE)	1:14:48
92 大野 知沙子	1:54:12
112 牧 依瑠香	2:08:12
115 中館 美卯	2:11:04
116 小野塚 智美	2:12:19
122 小川 奈菜	2:23:41
124 山本 瑛里	2:29:02

ロング男子

1 Matthieu Buehrer (SUI)	1:15:06
93 寺嶋 謙一郎	1:41:05
94 梶本 和	1:41:28
126 竹林 寛生	1:58:44
127 岩崎 壮馬	1:58:54
138 尾藤 碩	2:12:39
144 加藤 賢斗	2:27:37



フォレストリレー
寺嶋から梶本へ継走

ミドル女子

1 Lucie Dittrichova (CZE)	24:12
112 中館 美卯	39:48
114 大野 知沙子	40:27
117 山本 瑛里	42:20
124 小川 奈菜	46:44
134 牧 依瑠香	52:37
135 小野塚 智美	57:15

ミドル男子

1 Jan Strycek (CZE)	25:42
42 寺嶋 謙一郎	30:04
100 梶本 和	33:34
147 岩崎 壮馬	40:56
149 竹林 寛生	41:30
152 加藤 賢斗	42:41
155 尾藤 碩	43:10

フォレストリレー女子

1 フィンランド1	1:40:54
23 日本(中館-大野-牧)	2:31:30

フォレストリレー男子

1 スイス1	1:42:06
23 日本1(寺嶋-梶本-竹林)	2:10:30



JWOC2024 Webサイト

写真: ジュニア小委員会

2024年世界選手権大会(WOC2024)が7月11日～16日、英国・エディンバラにおいて開催されました。スプリント競技のみのWOCは、2年前にデンマークで初めて開催され今回が2回目でしたが、エントリーは前回よりも3ヶ国増えて45ヶ国、アジアからは日本、韓国、中国、香港、カザフスタンの5ヶ国が参加しました。

強化委員会では、スプリントWOCに向けて3年前から走力強化を念頭に、代表選考における走力重視の方針を打ち出しました。そして今回のスプリントWOCではスプリントカに優れた選手が代表選手に選ばれ、スプリントカだけをみると世界のトップ選手に大きく近付いたと考えています。また代表選手を選考した後は、少人数であっても毎週のように街中でのスプリントオリエンテーリング練習会を開催し、スプリントWOCに向けて充実したトレーニングができたと考えています。さらに、競技エリアは事前に公表されていたため、対策地図やコースを用いて充実した机上練習を行うことができました。

競技結果としては、ノックアウトスプリント女子競技で近藤選手が予選を通過して決勝ステージに進む36人に入り、準々決勝では6人中5位であったことから正式リザルトでは25位タイと記録され、今回目標としていた「スプリント個人種目35位」をクリアしました。また、スプリントリレーについては、目標の"20位、アジア、北米、南米、アフリカ地域の中でトップ"を達成することはできなかったものの(日本22位、カナダ19位)、フィニッシュするまでヨーロッパ諸国と秒差の争いをできたことは、今後に関わる結果であると考えています。

今回のWOC出場にあたり、昨秋から日本各地での強化委員会指定レース開催、スプリント練習会開催において、本当に多くの方々や地域クラブにご支援・ご協力をいただきました。直前においても、現地トレキャン用のコース提供、本番の対策地図、予想コースの提供などにも絶大なるご協力をいただき、選手たちには大きな支えと励みになりました。改めて感謝申し上げます。今後も引き続き、日本チームへのご支援ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

成績 (抜粋)

スプリント予選

男子予選2組

1 Tim Robertson (NZL)	13:17
15 Martin Roudny (CZE)	14:09
22 小牧 弘季	14:37
24 根本 啓介	14:58

男子予選3組

1 Yannick Michiels (BEL)	13:21
15 Martin Rohac (SVK)	14:30
34 橋 孝祐	18:39

スプリントリレー

1 スイス	0:58:43.30
22 日本	1:08:47.89
(近藤 - 小牧 - 根本 - 桑原)	

スプリント予選

女子予選1組

1 Megan C. Davies (GBR)	12:39
14 Shuangyan Hao (CHN)	14:24
14 Filipa Rodrigues (POR)	14:24
21 近藤 花保	15:07
30 樋口 佳那	17:14

女子予選2組

1 Simona Aebersold(SUI)	12:37
15 Gabija Razaityte(LTU)	14:20
23 増澤 すす	15:34

女子予選3組

1 Tove Alexandersson(SWE)	12:59
15 Hanna Muelle (GBR)	14:46
24 桑原 唯歩	16:01

ノックアウトスプリント予選

男子予選1組

1 Tuomas Heikkila (FIN)	9:50
12 Tuomas Heikkila (CZE)	10:40
22 小牧 弘季	11:17

男子予選2組

1 Yannick Michiels (BEL)	9:43
12 Oscar D.B. Jensen (DEN)	10:16
23 橋 孝祐	11:02
31 根本 啓介	11:47

男子予選3組

1 Tomas Krivda (CZE)	9:50
12 Piotr Parfianowicz(POL)	10:28
32 橋本 遼佑	11:53

ノックアウトスプリント予選

女子予選1組

1 Inka Nurminen (FIN)	10:15
12 Rita Maramarosi (HUN)	11:09
26 桑原 唯歩	12:53

女子予選2組

1 Simona Aebersold(SUI)	9:49
11 近藤 花保	10:44
12 Josefine Lind (DEN)	10:45
26 樋口 佳那	11:40

女子予選3組

1 Viktoria Mag (HUN)	10:06
15 Lizzie Ingham (NZL)	10:47
24 増澤 すす	11:18



日本チーム
前列中央は筑波大学08・現ロンドン在住の多田さん
おにぎりの差し入れをいただきました

WOC2024
Webサイト



ノックアウトスプリント準々決勝

女子3組

1 Megan C. Davies (GBR)	7:50.00
3 Evely Kaasiku (EST)	8:01.60
5 近藤 花保	8:19.40



準々決勝での近藤選手

速報！アジア選手権・アジアジュニアユース選手権

強化委員会、ジュニア小委員会

12月22日～25日にタイのチェンマイでアジア選手権(AsOC)、アジアジュニアユース選手権(AsJYOC)が開催され、選手50名の日本チームは好成績を修めました。

初日のスプリントでは、本庄祐一選手がアジアチャンプ、竹林寛生選手と太田来和選手がアジアジュニアチャンプとなり、2日目のミドルでは、伊藤樹選手がアジアチャンプ、斉藤大己選手と鈴木万結選手がアジアジュニアチャンプ、大久保佑真選手と大野知沙子選手がアジアユースチャンプ(18歳以下)、宮脇滉直選手がアジアユースチャンプ(16歳以下)となりました。16歳以下女子の部では小学5年生の石井百花選手が2位に入る大健闘を見せました。最終日のリレーでは、出場7クラス中6クラスで優勝を果たしました。

アジアチャンプの本庄祐一選手と伊藤樹選手は、それぞれ、2026年夏のスプリント世界選手権@イタリア、2025年夏のフォレスト世界選手権@フィンランドの出場権を得ました。

また、今回のAsOC成績により、2025年夏に中国四川省で開催されるワールドゲームズの出場権を日本が獲得しました。

詳細は次号で報告します。

リレーM18優勝 佐藤・上拾石・大久保選手(AsJYOC)



石井選手(AsJYOC)



日本チーム(AsOC、AsJYOC)



松本選手(AsOC)

写真：強化委員会、大会公式サイトより

2024年MTBO世界選手権大会(WMTBOC) 報告

MTBO委員会

9月9日～15日にブルガリア・シューメンにてMTBO世界選手権大会が開催され、日本からは8名の選手が参加しました。

今回は男子選手が大活躍！まず、新しく2名の男子選手をチームに迎えました。

1人目は梶選手、パラカテゴリーで世界トップレベルのアスリートです。MTB、シクロクロス、トライアスロンで活躍し、トライアスロン世界選手権2位、XTTERA世界選手権優勝ほか数々の輝かしい経歴を持っています。現在オランダ在住。MTBOは今年から始めたものの、数回の練習で高い順応力を見せ、初参戦でロング47位の好成績をおさめました。またリレーでJAPAN2の好走にも貢献しました。

2人目は黒田選手、大学からのフットO経験者で、スキーOでも活躍しています。数年間の競技ブランクはあったものの、このためにMTBを新調し、国内練習を経て、初のMTBO世界選手権大会でも安定した成績を残しました。

そして他の選手もそれぞれ活躍を見せました。嶋岡選手はロング41位、トップ比125%という好成績。ここ数年の雪辱を果たしました。リレーでも1走の良い位置で次走につなぐ等、チームの活躍に貢献しました。



綾野選手

綾野選手は今回がジュニアカテゴリー最後の年になりましたが、ミドル15位という驚異的な好成績を残しました。オリエンテーリング競技全体でも、日本選手で20位以内というのは数えるほどしかないのではないのでしょうか。来年からのシニアでの活躍に、他国の選手からの注目も高くなっています。

阿部選手は、初戦のスプリントで、人工障壁等の設置された難度の高いレースで確実な走りをみせました。また山中で倒れたSIACステーションをレース中に修復するなど、フェアプレーをたたえられ、大会期間中に表彰されました。

羽鳥選手は、昨年の鎖骨骨折からのリハビリと、短期間の体重調整で直前まで追い込みを続け、驚異の調整力で大会に臨みました。そして全レースで成績を残し、最終日のリレーでは、JAPAN1の3走を任せられ、国別順位12位を獲得する大役を果たしました。



羽鳥選手



大類選手

女子選手は2名で参戦し、リレーは人数がそろわず出走できませんでした。
 加納選手はスプリント33位、マスタートでは終始他国選手と競り合っ中で28位相当のタイムでしたが、計時が残らず成績がつきませんでした。ロングではメカトラブルでDNFとなり、全体に悔しさの残る結果となりました。
 大類選手は昨年以上のトレーニング量をこなして今大会に臨み、マスタート中の膝の負傷などで苦戦しましたが、ロング38位で完走するなど健闘しました。
 次回の世界選手権大会は2025年8月に、ポーランド ワルシャワでの開催が決まっています。

これからも MTBO JAPAN TEAM への応援よろしくお祈いします!

写真: Kiril Panayotov

MTBOチームは、一緒にさらなる上を目指す、新たな戦力を求めています。
 ハイスピードのオリエンテーリングで、今までと違う景色を見てみませんか?



MTBO Japan
facebook

第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025 について

日本デフオリエンテーリング協会 野中好夫

2024年12月1日に開催された第45回理事会に於いて、東京2025デフリンピック準備委員会は発展的解消をし、新メンバーを補充して東京2025デフリンピック委員会が設立承認されました。

東京2025デフリンピックは2025年11月15日(土)~26日(水)に開催されます。
 各競技の日程が2024年11月13日にポータルサイトで公開されました。(今後、変更可能性あり)



東京2025デフリンピック
大会ポータルサイト

オリエンテーリング競技について

デフリンピックに初めてオリエンテーリング競技が加えられたのは1997年7月にデンマークのコペンハーゲンで開催された第18回デフリンピック。

日本からの初参加は2005年1月にオーストラリアのメルボルンで開催された第20回デフリンピック。その時は、スプリント、ロング、リレーの3種目しかありませんでした。日本からは私のみだったため、リレーは出られませんでしたが。最下位という予想に反して長年の経験差でスプリント種目において駆り出された現地選手を抑えることができました。また、10kmに及ぶロング種目には現地選手が不出場の為、最下位となったが制限の2時間ギリギリで完走しました。フィニッシュ時の強豪欧州勢より拍手喝采を浴びたことが忘れられません。その後は2013年7月にブルガリアのソフィアで開催された第22回デフリンピックに日本から1名出場したのみになっていました。

今回、第25回東京大会の開催をきっかけにトレイルランをやっていたデフアスリートが続々とオリエンテーリング競技に転向してくるようになりました。その中で初入賞を目指す有望なデフアスリートが出現しています。応援のほどよろしくお願いいたします。

- 参加国: 10~15か国見込み
- 参加選手: 男子20~30人、女子15~25人 計35~55人
- 競技種目: スプリント、スプリントリレー、スーパースプリント、ミドル・ディスタンス、ロング・ディスタンス、リレー の計6種目
- 競技会場: 日比谷公園、伊豆大島



JOAオリエンテーリング競技
運営ボランティア登録
(随時受付中)



東京2025デフリンピック
ボランティア募集中
(2025年1月31日23時59分まで)

書籍紹介

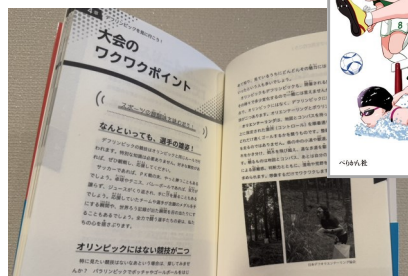
「世界に挑む! デフアスリート 聴覚障害とスポーツ」

オリエンテーリング競技がオリンピックには無い競技として写真付きで紹介されています。

- デフリンピックはいつから始まったの?
- 何故、パラリンピックと別々に開催?
- デフアスリートってどんな人?
- 耳が聞こえない人はどんな人?
- 耳が聞こえない人と話すときは?
- デフリンピックの観戦方法は?

など色々疑問に思っている方はぜひ、この書籍を手にとってみてください。
 きっと、あなたのデフリンピックの観方が変わってくると思います。

著者 森埜こみち
発行 株式会社ペリかん社



2024年度日本学生オリエンテーリング選手権大会

(スプリント・ディスタンス競技部門/ロング・ディスタンス競技部門)

2024年11月16・17日、福井県あわら市でインカレスプリント・ロングが開催されました。この地でスプリントとロングが行われるのは10年ぶりのことで、学生・OBOG・運営者合わせて1000人近くが集まり、応援の音が響き渡りました。

1日目のスプリント競技では、選手が観戦エリアの目の前から出走し、仲間の元へ戻ってくるまでの間に1秒を争う戦いが繰り広げられました。男子選手権クラスでは序盤に稲邊選手(筑波4)が好タイムを出し、3位入賞を決めました。同じ筑波大学の及川選手がトップタイムを更新し、古角選手(東北3)が迫るも2秒届かず、及川選手が選手権を制しました。女子選手権クラスでは中館選手(横国2)がトップゴールを決め、そのまま6位入賞となりました。中盤には山崎選手(筑波3)、樋口選手(筑波4)、小野塚選手(筑波2)が次々と上位の記録をつけていきこのまま決まるかと思われたラストスタート、桑原選手(横国4)が優勝設定を上回るペースでラップを塗り替え、優勝を勝ち取りました。

2日目のロング競技は会場に隣接する「AWARA AMAZENG ~あわら迷図2024~」で行われ、いくつかの勝負レグにより展開に大きな動きが生まれました。男子は序盤に同時フィニッシュした山口選手(東京3)、竹下選手(筑波3)の記録からなかなか動きませんが、石原選手(京都4)と梶本選手(東京2)が並走してフィニッシュし、それぞれ2位、3位と入賞しました。そして序盤のロングレグで弾みをつけた美濃部選手(横国4)が確実なナビゲーションにより、春インカレとの2冠に輝きました。女子は序盤に角本選手(京都4)が優勝設定+6分を記録し3位入賞。樋口選手がその記録を更新しましたが、山崎選手が更にその3分上を行き、王座を勝ち取りました。

2024年度日本学連幹事長 遠藤陽太

成績 (抜粋)

スプリント・ディスタンス競技部門

ME 3.5km(↑48m)

1	及川悠太郎	0:14:26	筑波大学3
2	古角海志	0:14:28	東北大学3
3	稲邊拓哉	0:14:38	筑波大学4
4	石原潮人	0:14:46	京都大学4
4	寺嶋謙一郎	0:14:46	東京農業大学3
6	森創之介	0:14:47	横浜国立大学3



WE 2.9km(↑36m)

1	桑原唯歩	0:13:35	横浜国立大学4
2	山崎葵	0:14:03	筑波大学3
3	樋口佳那	0:14:18	筑波大学4
4	小野塚智美	0:15:08	筑波大学2
5	砂田優萌子	0:15:09	お茶の水女子大学3
6	中館美卯	0:15:14	横浜国立大学2



ロング・ディスタンス競技部門

ME 8.2km(↑490m)

1	美濃部駿	1:17:52	横浜国立大学4
2	石原潮人	1:19:11	京都大学4
3	梶本和	1:21:18	東京大学2
4	寺嶋謙一郎	1:21:40	東京農業大学3
5	森創之介	1:22:33	横浜国立大学3
6	弓田和生	1:23:20	法政大学4



WE 5.8km(↑305m)

1	山崎葵	1:03:01	筑波大学3
2	樋口佳那	1:06:28	筑波大学4
3	角本柚香	1:10:52	京都大学4
4	中野友貴	1:11:36	名古屋大学3
5	桑原唯歩	1:12:26	横浜国立大学4
6	落合英那	1:14:44	京都大学3



インカレスプリント・ロング
Webサイト

写真：木植早生様

第33回全日本リレーオリエンテーリング大会



全日本リレー大会実行委員会

2024年12月8日(日)に2024年度全日本リレーオリエンテーリング大会を三重県津市東青山四季の里にて開催しました。前日には伊勢志摩OLC大会も開催され、賑わいを見せました。

MEクラスでは1走で愛知1 堀田選手と京都1 石原選手が2秒差で繋ぎ、2走では京都1 平岡選手が巻き返したものの、3走愛知1 伊藤選手が圧倒的なタイムで逆転優勝。

WEクラスでは1走で神奈川1 稲毛選手が独走。2走では難度が高めのコースを手堅くまとめた愛知1 近藤選手・広島1 山根選手が押し上げ、3走愛知1 伊部選手が首位を守り優勝。

総合ではME、WE、MJ、WJ、XJの5クラスで1位を勝ち取った愛知県が、他都道府県を突き放し連覇しました。

2025年度は11月9日(日)滋賀県高島市にて開催予定です。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

🏆 主な成績

ME

- 愛知1 1:53:50
(堀田遼 - 南河駿 - 伊藤樹)
- 京都府1 1:55:43
(石原潮人 - 平岡丈 - 二俣真)
- 千葉県1 1:58:59
(橘孝祐 - 朝間玲羽 - 宮本樹)
- 長野県1 2:00:14
(宮嶋哲矢 - 稲森剛 - 小牧弘季)
- 神奈川県1 2:00:52
(田邊拓也 - 前中脩人 - 結城克哉)
- 埼玉1 2:01:57
(久保木航 - 清水俊祐 - 弓田和生)

WE

- 愛知県1 2:18:48
(落合英那 - 近藤花保 - 伊部琴美)
- 広島県1 2:23:59
(角本柚香 - 山根萌加 - 松本萌恵)
- 山梨県1 2:28:22
(上島じゅ菜 - 小林祐子 - 木口瑞穂)
- 埼玉県1 2:33:34
(溝端昭子 - 山岸夏希 - 皆川美紀子)
- 神奈川県1 2:39:55
(稲毛日菜子 - 平澤葵 - 安部紗也佳)
- 東京都1 2:45:51
(柴崎愛有 - 河内絵里香 - 阿部悠)

MV

- 神奈川県2 2:16:09
(山内亮太 - 森竜生 - 橋本浩一)
- 兵庫県1 2:23:17
(佐賀寛 - 吉野信治 - 橋本裕志)
- 静岡県1 2:26:21
(鈴木正文 - 滝正晴 - 鈴木悟)

WV

- 東京都1 1:50:54
(水嶋直子 - 池田麻子 - 渡辺円香)
- 神奈川県1 1:53:42
(宮川祐子 - 清谷千鶴 - 美濃部康世)
- 静岡県1 2:01:29
(鈴木夕紀子 - 滝志保 - 横井里乃)

MS

- 神奈川県1 1:50:22
(入江崇 - 村上巧 - 紺野俊介)
- 愛知県1 1:56:34
(池陽平 - 前田裕太 - 内藤愉孝)
- 山梨県1 1:56:50
(小山温史 - 国沢五月 - 石澤俊崇)

WS

- 埼玉県1 1:32:21
(辻悠佳 - 高野由紀 - 須藤友絵)
- 千葉県1 1:38:05
(津田春菜 - 小山智子 - 平井はるな)

MJ

- 愛知県1 1:39:13
(加藤賢斗 - 鈴木寛人 - 早川正真)
- 神奈川県1 1:40:26
(高橋悠 - 古角海志 - 堀井聡一朗)
- 埼玉県1 1:59:37
(斉藤大己 - 溝端宏司 - 福嶋崇)

WJ

- 愛知県1 2:02:22
(小川奈菜 - 中野友貴 - 落合美那)
- 埼玉県1 2:09:29
(山中望 - 鈴木万結 - 牧依瑠香)
- 東京都1 2:33:05
(山本瑛里 - 吉岡実沙音 - 渡邊陽与)

XV

- 千葉県1 1:42:39
(早野哲朗 - 宮本知江子 - 小山清)
- 大阪府1 1:50:39
(愛場庸雅 - 河合利幸 - 井上仁)
- 愛知県1 1:54:30
(角岡明 - 上島乃英 - 宮崎敦司)

XJ

- 愛知県1 2:04:59
(西川稜真 - 西川想介 - 坂下和義)
- 埼玉県1 2:37:47
(水嶋竜也 - 源後彩乃 - 白石太郎)

総合成績

- 愛知県 40点
- 神奈川県 32点
- 埼玉県 29点
- 千葉県 24点
- 東京都 22点
- 京都府 13点



全日本リレー
大会Webサイト



写真：木植早生様

望郷の森2024

Boukyo no mori

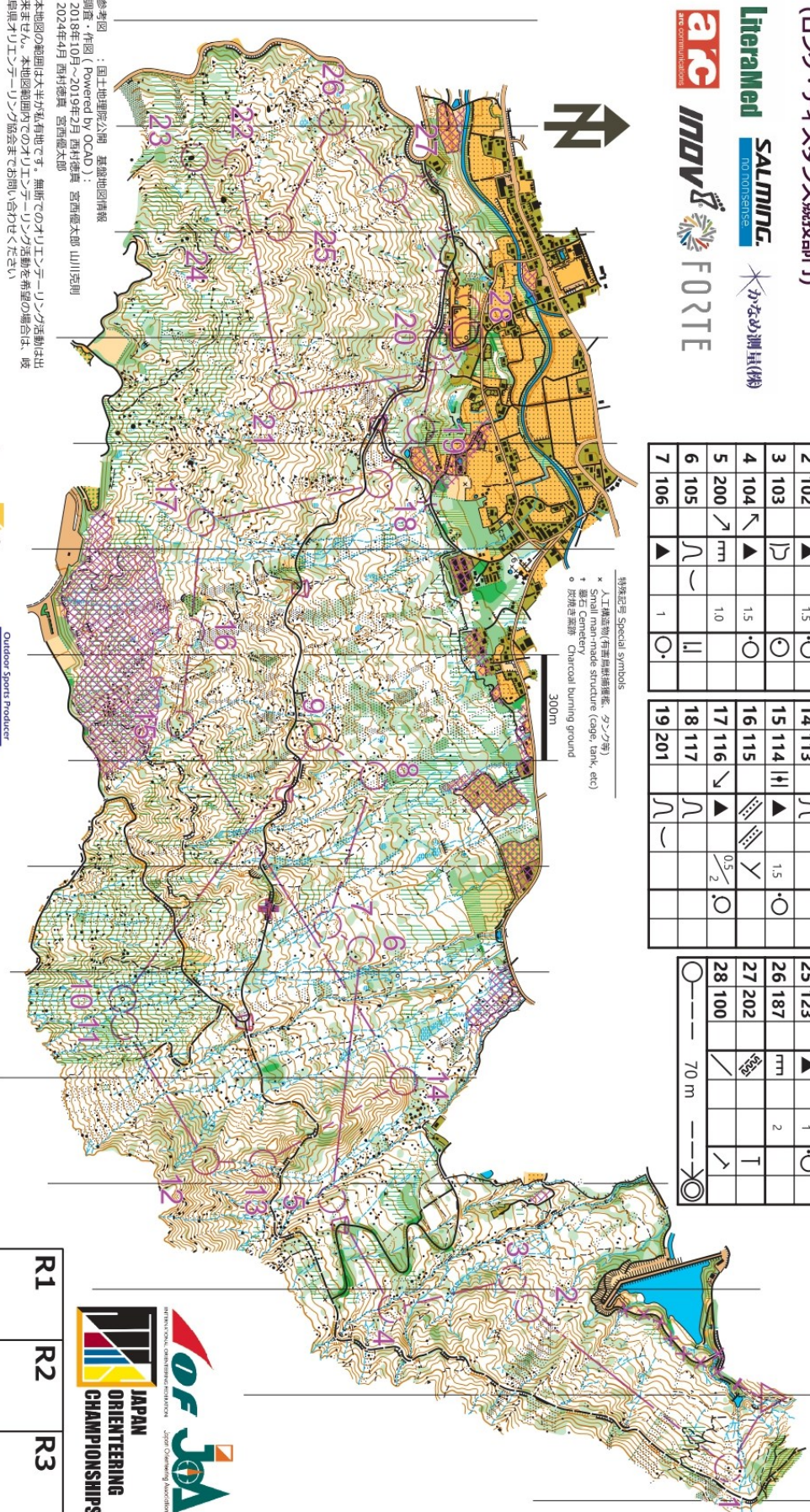
岐阜県恵那市

2024年10月20日(日)
第51回全日本オリエンテーリング選手権大会
(ロング・デイズスタンス競技部門)



JOC 2024 Long Distance		M21E	
1	11.1 km	725 m	
---	100 m	---	△
▽		▽	Y
1 101 ←	▲	1/2	○
2 102	▲	1.5	○
3 103	▷		○
4 104 ↖	▲	1.5	○
5 200 ↗	mm	1.0	
6 105	↘		
7 106	▲	1	○
8 107 ↘	▲	1.5	○
9 108	X		○
10 109		3x3	○
11 110	↘		
12 111	mm	3.5	
13 112		0.5	↘
14 113	↘		
15 114	▲	1.5	○
16 115	mm		
17 116 ↘	▲	0.5/2	○
18 117	↘		
19 201	↘		
20 118	◇		↘
---	260 m	---	→
21 119	↘		
22 120 ↑	▲	1.5	○
23 121	▲	1.5	○
24 122	≡		○
25 123	▲	1	○
26 187	mm	2	
27 202	mm		T
28 100	▽		↘
○	---	70 m	---

Scale
縮尺 1:15000
Contour interval
等高線間隔 5m



特殊記号 Special symbols
 * 人工建造物(竹垣・土蔵・橋・塔など) Small man-made structure (cage, tank, etc)
 † 人工建造物(竹垣・土蔵・橋・塔など) Small man-made structure (cage, tank, etc)
 ‡ 炭焼跡 Charcoal burning ground

参考図 : 国土地理院公開 基礎地図情報
 調査・作成 : 内閣府 国土院 2019年10月~2019年2月 西村健真 宮西優太郎 山川亮則
 2024年4月 西村健真 宮西優太郎

本地図の製図は大半が私用地です。無断でのオリエンテーリング活動は出来ません。本地図範囲内でのオリエンテーリング活動を希望の場合は、岐阜県オリエンテーリング協会までお問い合わせください。

Copyright 2024, 岐阜県オリエンテーリング協会 宮西山野精四郎 NishiPRO

